

## THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞文学部門・選考座談会●

## 新鮮さに期待、梅村光明に

□選考委員□

小林 武雄  
＜詩人＞杉山 平一  
＜詩人＞安水 稔和  
＜詩人＞

中村隆ハ詩、鄭承博ハ小説、小泉八重子ハ短歌、福元早夫ハ小説、三宅武ハ詩、秋吉好ハ小説、江頭越子ハ詩、桜井利枝ハ小説と続いたブルーメール賞文学部門。第9回は詩の分野で選考をお願いします。昭和53年、54年に神戸を中心として詩集を出版した人が対象です。

安水 まず、この2年間の神戸での動きを掲げてみます。竹中郁

「ボルカマズルカ」、伊田耕三「イチとつう」、綾見謙「殺意の韻律」

内田豊清「影の歩み」、玉本格「おれいもうしあげたきこと」「裏長屋物語」、山本博繁「おくらと幽

霊と胤」、広瀬正年「広瀬正年詩集」、井口浩「静寂の大地」、君本

昌久「君本昌久選詩集」、伊勢田史

郎「山の遠近」、なかけんじ「悪い収穫」、岡見裕輔「続サラリーマン

」、赤松徳治「痛み遠くまで」、堀内定義「船と玉葱」、山本美代子「紡

車」、三浦照子「やさしい旅」など

がこれまでに詩集も出ており安定した仕事をした人たち。新人で

は加藤裕一「火のプレリユード」、梅村光明「破流智壺」、古田豊治

「哀歌」「静けさと薔薇のための書」、黒田徹「風のなか」、小林重

樹「石に住む光」、たかはらおさむ「縫れた糸」北垣健二「未明の

喉」、大西隆志「綽名で呼ばれた場所」「近距離の色」などです。

杉山 「粒」の西本昭太郎は神戸に移ってきましたね。

安水 山本美代子とか赤松徳治はちゃんと自分の詩ができていてブルーメール賞というにはちよつと

小林 赤松徳治は半どんの会で新人賞を受賞しましたね。

安水 山本美代子も年間現代詩集新人賞を受賞。「紡車」はこの賞

を契機に出版されたそうですよ。岡見裕輔、なかけんじは独自の詩

境をもっていますね。杉山 「続サラリーマン」はおもしろかったし、なかけんじの「悪

い収穫」も良かった。

安水 堀内定義は前の詩集「弾道」で日本詩人クラブ賞を受賞。

杉山 僕は「船と玉葱」の方がおもしろいように思えたけど。

小林 新人というにはどうも……。杉山 梅村光明「破流智壺」はフ

レッシュ。ちよつと力が足りないかもしれないけど。

安水 本人は非常におもしろがって書いていて、おもしろがってる

しくみが透けてみえる所がある。それはそれなりにフレッシュな感

じ。これから伸びる人だと思えます。

杉山 新鮮だし、装幀もきれいだ小林 最後の詩「嵯峨野1」なんか

かひつかかるがあととは見事です。ものの見方が知的ですね。

杉山 僕も推したい。たかはらおさむ「縫れた糸」の前半は大変良

かったが終りの「家庭」の部分が

ちょっとあまいんだな。

安水 きつちりと分けなくてザツと並べてたら相乗作用でかえって良かったんじゃないかな。ただ初めの「勤め先」の詩は身につまされる感がある。

小林 人間の感情が素直に出て、苦悩がよく表われている。逃げずに真正面から取りくんでいる。

杉山 小林重樹「石に住む光」もいい。本人も石みたいにものを言わない人ですね。

安水 杉山先生の序文がいい。あんまり序文がいいもんで詩を読んでいくとそこからはみ出た部分が目につくんですね。

小林 子供の頃の折り紙を想い起こすような詩。丹念に見てるので良さはわかるが言葉が足りない。

杉山 地味な人だが10年位書いてる。推したい人物です。

小林 古田豊治の詩は昔の自由詩みたいで古い感じがしますね。

杉山 やっぱ詩はドキッとさしてもらわないと。

安水 若い人には共感を得にくいでしょうね。だが「哀歌」の方には大きな構想が伺えますよ。

小林 「哀歌」の方がいい。野心を感じます。

杉山 迫力がありますよ。

安水 北垣健二「未明の喉」は抒情のタッチが非常にいい。言葉がピュッピュッと触手を伸ばしているが描ききれていない所がある。

神戸という感じがしないんだな。

杉山 もう一步という感じだな。

安水 VIKINGの同人、黒田

微もしい。ユーモアがあるんですね。残念ながら相模原市在住。もう一人、ぜひ推したいのが「漿」の同人、姫路の大西隆志。

「綿名で呼ばれた場所」「近距離の色」と二年続いて詩集がでてます。

杉山 「近距離の色」は斬新でフレッシュですね。

安水 いなかのプレスリーというか、カッコ良さそうで泥くさい所が非常にいい。24歳です。

★出来れば二人に。梅村と大西

杉山 ブルメールの名に相応しく新鮮な人物を選びたいね。

安水 新しいな、という感じなら大西隆志が群を抜いてる。

杉山 「漿」の同人で神戸での活躍もあるわけだ。

小林 市民の学校で活躍してる梅村光明の方が詩としては安定してるようです。

安水 どちらも新しい方向でおもしろく大きな可能性を秘めている。神戸と姫路、でわりきっては。

杉山 大西の方は出版が紫陽社で幅広いチャンスにめぐり逢うかもしれない。梅村の方は神戸に根づいた活動で28歳の若さ、賞にはびつたりの感じですね。

安水 コンスタントに書いており詩集を出した時よりさらに飛躍して期待できる人。梅村に賛成です。

小林 神戸の賞ということで第9回は梅村光明に決めましょう。

詩集 破流智慳 梅村光明

ぼるちざん  
詩集「破流智慳」(蜘蛛出版社)

# THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞音楽部門・選考座談会●

## 安定した内容の山内鈴子

□選考委員□



吉村 一夫  
＜音楽評論家＞



柴田 仁  
＜音楽評論家＞



小石 忠男  
＜音楽評論家＞

★数多かった昨年の音楽活動だが

編集部 はじめに過去の受賞者を

確認しておきますと、第一回にピ

アノの田原富子さん。それから鷹

匠中学合唱部を指導する矢野恵一

郎さん。この合唱団は昨年七月に

オーストリアの国際音楽フェステ

イバルに招待されて、むこうで何

回かの演奏会を開くという活躍ぶ

りでした。そしてバレエの上月倫

子さん、モダンダンスの今岡頌子

さんと続き、音楽評論として小石

忠男さん、作曲の中村茂隆さん、

ピアノの関晴子さん、声楽から坂

本環さんとなっています。

吉村 とりあえず各ジャンルから

受賞者がでていることになってま

すね。

編集部 そうです。ですから今回

も特にジャンルは決めないで、全

体から候補者をあげていきたいと

思いますが、リストアツプはジャンル別に進めたいと思います。

小石 ピアノから検討していきます

すと、伊藤ルミが諏訪根自子の伴

奏（1月22日、風月堂ホール）とピアノ

コンサート（11月29日、神戸外国倶楽部

）。布野ゆき子が昨年の受賞者で

ある坂本環とのジョイントコンサ

ート（3月2日、神戸文化ホール）。

柴田 これはクリティッククラブ

新人賞と神戸灘ライオンズクラブ

音楽賞の受賞記念で開いたもので

したね。

小石 同じようにこの二つの賞を

受賞している山内鈴子さんがリサイタル

（10月9日、神戸文化ホール）を開

いています。

柴田 若いけれど自分のものをも

っているみたい。他にピアノでは

添田孝（7月3日、神戸文化ホール）、

片山晴美（4月5日、神戸文化ホール）、

中村八千代（10月4日、芦屋ルナホ

ール）、森川和子（6月26日、神戸文化ホール）、名嘉山順子（8月3日、県民小劇場）などがありました。

小石 添田は、彼女自身としても

まあ普通の出来。

柴田 演奏としては成長していて

安定感がでてきたのがなによりで

すね。

吉村 他の人たちも良くもなく悪

くもなくというところですね。ピ

アノで候補として残せるのは山内

鈴子。

編集部 次に音楽部門ですが、こ

ちらも数多く活動があったよう

です。

柴田 関西歌劇団と二期会関西支

部が合同で、小沢征爾指揮の「ト

スカ」（7月11日・12日、大阪フェステ

イバルホール）が話題のひとつです

が、残念ながらあまり良いできと

はいえないようです。松本幸

三、木川田誠、三室堯などが出演



してました。

吉村 三室はなかなか安定している人で、このトスカのほかに「第九」で歌ったりもしているが、積極的にリサイタルを開くとかして欲しい人ですね。

小石 メゾ・ソプラノの井上和世が東京へ6月15日、青山タワーホールと大阪へ7月4日、大阪厚生年金会館中ホールVでフランス歌曲独唱会を開いています。

吉村 ええ声だとは思いますよ。

柴田 広岡隆正がリサイタルへ9月16日、大阪府立労働センターV。

吉村 この人はソフトな声だから迫力がないけれど、ああいう歌い方は非常にいいと思う。

小石 小村亮三のリサイタルへ11月15日、大阪府立労働センターVもあり

ました。水準以上のでき栄えて、安定するといえるでしょう。

吉村 この人も声はええ。いつも安全第一という感じで、受賞ということになるけど打が欲しい。

★山内、持田、佐野が有力候補

柴田 リコーダーの北山隆がリサイタルへ6月14日、菅屋ルナホールVを開き、またテレマンアンサンブルで数多くの演奏活動を繰り広げています。

吉村 切り札がないんですね。そのかわりいつもいい。あの演奏が特に良かったというのが欲しい。

小石 フルートの持田洋がランパルとデュオ・コンサートへ9月21日神戸文化ホールVを開いています。

吉村 実力のある人です。音色が



演奏中の山内鈴子さん

いいですよ。

小石 ギターの佐野健二がヨーロッパから帰ってきて活躍へ3月12日県民小劇場／10月31日、大阪津村講堂Vしてます。

吉村 好評でしたね。まだ若いし、将来に期待したい。神戸でリサイタルを開いて欲しいですね。

柴田 神戸中央合唱団へ7月14日、神戸文化ホールVや土曜会合唱団へ6月3日、神戸文化ホールVは相変らずよくやっていますが、神戸市役所センター合唱団もとてもいいです。

小石 朝比奈千足がフレツシユコンサートへ4月6日、神戸文化ホールVで指揮者としてデビューしています。

吉村 本格的な活動は今年からですが、注目していいでしょうね。編集部 最終的には山内鈴子、持田洋、佐野健二が残ると考えて、この三人から選考しましょう。

吉村 持田は神戸での活動があまりないから少し弱いけど、今までの実績や将来性は充分買えます。

佐野も神戸でリサイタルを開くとかして、はっきりした主張を出して欲しいですね。

柴田 山内がいい。

小石 神戸では二回目のリサイタルで、個性的だし、安定していますよ。

吉村 山内に決定しましょう。

## THE KOBECCO 19TH

第6回ブルーメール賞美術部門・選考1座談会

## 榎忠の発想と個性を評価

□選考委員□

赤根 和生  
＜美術評論家＞乾 由明  
＜美術評論家＞増田 洋  
＜県立近代美術館事業課長＞草野 拓郎  
＜神戸新聞学芸部＞

編集部 昨年のも美術界の講評を交えながら第九回ブルーメール賞の選考をよろしく願います。前回までの受賞者は山口牧生△彫刻▽丸本耕△造形▽小西保文△洋画▽藤原向意△版画▽齊藤智△現代平面▽鄭相和△洋画▽山本文彦△洋画▽堀尾貞治△造形△となつています。

赤根 絵画に関しては新しい人が出る余地がないといえますね。それに反して立体に見応えのあるものが多かった。田中薫△彫刻▽を筆頭に宮崎豊治△彫刻▽も常にレベルのある作品活動をしている。中右瑛△絵画▽が果民アートギャラリーで大個展をやりましたね。河口龍夫△造形▽は決定打がない。植松奎二△造形▽が帰ってきて個展と講演をやりましたね。

乾 いい仕事でしたね。総括的な事を言うとも明確なイメージがあまり出ないですね。かと言って沈滞

していたというのではなく皆それぞれいい仕事をしていたが際立った現象がなかったという事です。ここ数年来そういう状況が続いています。キャリアのある人が候補に挙がっているが、彼らは仕事ぶりが持続しているんですね。田中、宮崎、それに西独に帰国してしまつたが植松、版画ビエンナレで入賞した河口も彼の作品の中では取り立てて良かったという訳ではないが、コンスタントな仕事ぶりだった。

増田 宮崎はスケールの大きいものと言え場所により出せる能力がある人ですね。僕が注目しているのは榎忠△造形▽。アートナウ'79の大砲と東門画廊での個展…。乾 あれは面白かった。個展は見えないが彼はいい。

増田 候補と思つて来たのは榎、宮崎、松井憲作△平面▽の三人です。

ブルーメール賞という事を考えなくて昨年の活躍ぶりを評価すると鴨居玲△洋画▽の、特に具象人間五人展の作品が良かったですね。元永定正△洋画▽もよく頑張つたね。地味だが光風会の藤原昭三△洋画▽の作品がグレー調から明るくなりました。しかし何といつても鴨居さんのここ二、三年の画境はいいですね。

草野 今までに主だった名が挙がりましたが私なりに印象に残つた人の名をアトランダムに挙げてみますと南和好△洋画▽は行動美術に所属しますが水準以上の作品を常に出品しています。岩見健二△洋画▽の鯉の絵もいいですね。中右の日本の抽象、服部淑子△工芸▽オブジェも面白い。河口は同感です。尾田龍△洋画▽は日動、橋本両画廊での個展に迫力があつた。工藤秀策△洋画▽は山を描いているが

色を押さえた画調がいい。藤原志保△水墨△はこれからの人で伸びる人だと思っています。他に木下佳通代△平面△八木マリヨ△彫刻△。田中はよくコンクールで賞をかつさらいましたね。

増田 あんまりたくさん賞を取ったのでかえって今回は、と思うのですが。田中の活躍は素晴らしいと思いますよ。

赤根 後に続く人の事を考えると田中の仕事ぶりはどこに出しても恥しくない。宇部での一般公募で大賞受賞という例も少ないし。

乾 宮崎もコンスタントな仕事ぶりで割に今まで賞に縁のない男だ。彼の実力をかってやってもいい。賞にこだわる必要はないが刀量が同じならそういう事を考えて

やった方がいいのでは。田中は勿論、実績があるが作品の良さでは宮崎も劣らない。

赤根 発表の姿勢に問題はあるが平面なら南もいい仕事ぶりだな。

増田 ずい分いい作家の作品展を神戸でやる様になりましたね。

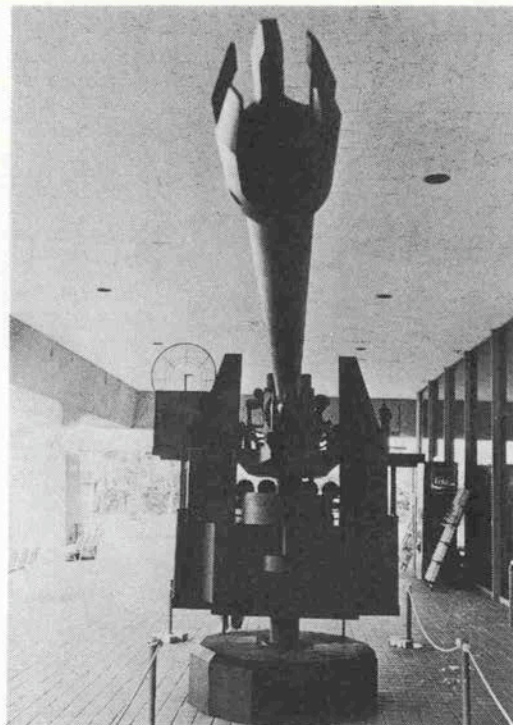
赤根 キタノサーカスの小清水漸展などね。企画そのものでブルーメール賞があたえられてもいい。

アートナウに出版した一圓達夫△版画△もいいね。

増田 惰性から脱出した観があるのが山田祥三△洋画△。若手では黒川博△洋画△もよくやっている。こう考えると東門画廊を企画している堀尾の功績は大きいね。

編集部 候補をしぼりましょう。

増田 榎、宮崎、松井ですね。松



榎忠さんの“NNTITLED”アートナウ'79  
(於県立近代美術館) 出品作品

井は大阪での仕事が多かった様だがあの手の平面は今まで出てないですね。榎の奇想天外な発想と発表は神戸っ子的ですね。

赤根 河口は横バイのコンスタントのようだから外しましょう。

乾 榎は、何をやるかを見ていきたい人ですね。

増田 前回の須磨野外彫刻展のエスキース入賞作品も面白かった。発想が広いですね。神戸の寅さんの人物でちよつと浪花節もあるし

赤根 神戸っ子の小説のさし絵を見て技術の上手さに驚きましたよ

突飛な事をやってもズザンなどがない。彼は四国の速水史朗△彫刻△の教え子だそうですね。

草野 仕事が出ていいですね。

乾 榎は新鮮ですね。似ている様で堀尾とはタイプが違う。むしろ宮崎と共通の職人はだですね。松井はいま一歩というところだね。

赤根 田中の活躍も捨てがたいね

草野 そうですね。あれだけの活躍を考えると田中ですね。

増田 二人にしぼると榎、宮崎。しかし今回は榎を推したいですね。

乾 僕は宮崎を推したかったが、榎に一票を投じます。

赤根 榎の将来性や作品の発想の豊かさに敬意を表して第九回目は榎忠の受賞にしますか。

草野 私も賛成です。

編集部 全員一致で榎忠さんに。



## THE KOBECCO 19TH

●第9回ブルーメール賞舞台芸術部門・選考座談会●

## 圧倒的な仮名手庵歌舞伎

□選考委員□



佐野 漣策

<神戸新聞  
文化事業局長>

小泉 康夫

<能楽研究家  
本誌編集長>

岡田 美代

&lt;神戸文化ホール&gt;

会です。

佐野 花柳芳一、芳恵一子の三ツ  
桜会が六月です。岡田 芳恵一子は江戸前の粋をみ  
せた「江戸風流」がよかったです  
ね。佐野 コメディ・ド・フーゲツは劇  
団神戸の「から騒ぎ」からだった。岡田 昨年三回ほど上演して、「四  
谷諧談」が一番良かった。台詞も  
テンポもいい。佐藤博幸が新鮮だ  
ったし、森秀人のワキが光ってる佐野 元町の風月堂ホールに合せ  
た夏目俊二の作品選びが上手い。  
本人も大熱演だし定着させたいね小泉 小倉啓子も神戸の看板女優  
になりましたね。道化座も「いの  
えノイエ」が七月で五十回記念公  
演としつく頑張っていますよ。★神戸文化の仮名手庵歌舞伎に  
岡田 五三輔会では花柳五三輔が  
よく頑張って、助六がさわやか。★好調ノコメディ・ド・フーゲツ  
編集部 第一回より古典芸能部門  
ということで花柳芳恵一子、若柳  
吉由二、吉井順一、花柳芳五三郎  
花柳吉叟、藤間緑寿郎、尾上菊見  
藤井徳三と日舞界、能楽界から選  
考されましたが、今回から舞台芸  
術部門と改め範囲を広げて選考し  
てゆきたいと思います。小泉 昨年、選考委員の富田順三  
氏が亡くなられ、惜しい人材でし  
た。まず新年の催から展望しまし  
よう。佐野 神戸五流能がありましたね  
岡田 満五周年を迎えて、観世・  
金剛・金寿の各宗家の子息による  
「弓矢立合」があり、これは気合  
のこもった素晴らしいものでした。佐野 神戸で五流能が続いている  
のは嬉しいことですね。二月に新  
内と新内舞踊の会があり、これも  
民踊と同様ブームになってきた。岡田 一月の初春の舞扇も女子大  
生の各流名取りが競演し新鮮でね  
佐野 名流舞踊の会は兵庫県舞踊  
文化協会主催で創立三十周年を迎  
えました。話題になったが、これ  
は豪華であった一言に尽きます。  
功労者が十一名表彰され、創立者  
がなお現役で頑張っておられます  
からね。岡田 狂言小劇場は、面白かった  
ですね。また企画してほしい。小泉 狂言は茂山あきら、正義、  
真吾など茂山一家が頑張り若手が  
活躍しました。狂言の新しい提案  
として評判は仲々良かった。佐野 松本尚女会による兵庫県欧  
州文化交流親善使節、舞と琴の会  
とか、若柳吉由二の吉由会があっ  
た。吉由会に富田順三さんの新作  
「弁財天」が出ましたが、最後の  
遺作となりましたね。

岡田 花柳楽堂の芳五会も恒例の

佐野 これから楽しみな人です。

七月は山吹会舞踊発表会、これは全国的な組織で、一昨年の神戸まつりには約二千人が大パレードをくり広げたんですよ。

岡田 衣裳や舞台背景にも凝っているし、ひとつのブームですね。

佐野 十一月にあった紫月会もすごい迫力でしたよ。

小泉 神戸能楽教室も第4回まで続き小規模ながら定着しています

岡田 これからも続けて欲しい。

佐野 花柳勝十郎のリサイタルは創作が多くて面白かった。筑前琵琶演奏会は？

岡田 旭堂と娘の旭艶が演じた船弁慶が印象的でした。琵琶は一般の人に聞いてもらえないのが残念。グリーンステージの日本の調

べ「大和楽」は初めての会を神戸で催したのが嬉しかった。

佐野 家元以下、一生懸命、真剣でした。気合いが入ってた。

小泉 神戸で大和楽のメンバーが揃うというのは大和三千世の功績が大きいですね。

佐野 吾妻徳穂、武原はんの舞踊会も二年続けて神戸でやったわけで、他の地域にないものを神戸で育てていきたいですね、五流能や神戸能もそうですが。

小泉 神戸能も第7回目を迎えた観世静夫の玉井、藤井久雄の鉢木観世元正の花筐、上田照也の正尊狂言は大刃奪と附子でした。

岡田 第3回神戸狂言の会もありましたが狂言は神戸ではどうですか。観客の動員が難しいですね。



<上> 昨年12月に催された仮名手庵歌舞伎「勸進帳」のつめ合い場面  
<下> 「御浜御殿綱豊劇」の稽古風景。海野先生の熱心な指導ぶり。

大阪で狂言座をやってますね。

小泉 善竹孝夫が頑張ってます。

岡田 いさとよ会の花柳五三豊は立ち姿が綺麗ですね。

佐野 この人も五三輔同様これからよくなる人ですね。若柳吉金吾襲名舞踊会も華やかでした。

岡田 吉金吾の鏡獅子が評判でした。師走の仮名手庵歌舞伎が凄いです。

佐野 今年で10周年になるね。大ホールに観客を満員にさせるほどの力をつけた。演物も勸進帳が良かった。ともかく型になっている

岡田 発声法もできているし、若いから肌がすごく綺麗ですよ。

佐野 海野先生の指導の鮮さです。小泉 今の日本の教育制度では先生も生徒側にもできないことだ。が、日本の若者が興味を示さない伝統芸能の歌舞伎を外人があればどうやっている。問題の提起ですね。

佐野 甲南大学に歌舞伎研究会があるけどそれより、仮名手庵歌舞伎の方が様になっている。外人がこれだけやるからというのでなく芝居としてみて、ホロリとさせられた。今年は海野光子率いるカナディアンチームにあげたいね。

岡田 父兄を始め神戸に在住の外人達が一生懸命応援して清々しい小泉 他の地域にはできない、神戸らしい文化として相応しいでしょう。では仮名手庵歌舞伎、指導・海野光子で決定しましょう。



## THE KOBECCO 19TH

第9回ブルーメール賞ファッション部門・選考座談会

## 努力家の市野木江充子に

□選考委員□



福富 芳美  
＜神戸ドレスメーカー女学院院長＞



森本 泰好  
＜神戸地下街幹事＞



藤本ハルミ  
＜デザイナー＞



小泉美喜子  
＜本誌エディター＞

## ★分野をこえた盛んな交流

藤本ハルミ、米田博司のお二人の受賞者を出してきたファッション部門ですが、さて今年の神戸ファッション界の動きはどうだったでしょう。ファッションを服装

だけでなく、街づくり店づくりから料理まで広くとらえて、選考していただきます。

小泉 ファッションショーが、随分開かれましたね。ニットの市野木江充子が稲垣足穂「一千一秒物語」をテーマに、ブティック魔女の大里最世子も春、秋にコレクションをしました。KFCの春のショーは、真珠業界の協力を得たショーでした。

藤本 KFCのメンバーの中ではスリランカのイメージを作品にした大西節子が印象的でした。

福富 彼女はジバンシーサロンで

鍛えられていますからね。最近のびて、個性も持ってきましたよ。

小泉 彼女自身の個性プラスジバンシーの格調がいいですね。

藤本 デザイナーはイメージから発想して服づくりをする人と形から入っていく人と二種類あると思うんですよ。市野木さん、大里さんは前者ですね。

福富 ただ、服というのは実用的でなくてはならない。特に神戸のファッションは目的を無視しては成り立たないんですよ。そういう点をふまえてのクリエイティブな作品でなくてはならない。独断に陥ってはいけないということです。市野木さんのショーを見てみると彼女のヴィジョンは一貫して感じられますね。

藤本 街に溢れているグレタ的なニットでなく、かつての泰万紀子さんのようなオートクチュールニ

ットのデザイナーになって欲しいです。今はまだ、作品に多少むらがあるように思います。

小泉 秋のショー「一千一秒物語」の作品は、今まで以上に神戸らしい透明な色で纏められていてよかったですよ。

森本 神戸のファッションは「神戸の色」を無視できませんね。神戸にだけ通用する色があるように思います。

藤本 重い暗い色は駄目ですね。小泉 そういう意味では浦野敏彦の色使いはともて神戸らしいですね。去年の秋、小松左京の芝居の衣裳を担当しましたがよかったですよ。

福富 彼は将来が楽しみです。じっくり落ちついて仕事をして欲しいです。まだまだ基礎不足。

藤本 若いですからね、焦っているんでしょう。若いデザイナーた

ちには辛抱が大切、と一番いい。そしてコンスタントに作品を発表できる状況を早く作って欲しいですね。

小泉 無台衣裳はこの他、柳本薫の劇団神戸、藤本さんは今岡頼子東京公演の衣裳を担当しました。デザイナーと他の分野の人の交流の多い年でしたね。

藤本 KFCと真珠のドッキングも、交流の成功した例でしょう。

それからKFMというグループができました。神戸の自由なモデリストのグループということで、三月にショーを開きます。

★若い世代の街づくり、店づくり

北野町、センター街、元町に新しい店やビルができましたが、街づくりの話題も願います。



79年秋の市野木さんのショー「一千秒物語」の中の作品  
「銀河からの手紙」

小泉 シンワの岸野恭久、アルフイーの山田恭正、柴田音吉洋服店の柴田啓嗣と二代目のニューサティの活躍を感じます。

藤本 アルフィーはBIGI、メルローズといった東京のブランドを置いているのですが、その中から、感心する程神戸の色だけを抜いてきています。商品の色構成が素晴らしいですよ。

森本 選択眼の良さですね。それにこれは戦前の神戸の専門店の特長でしたよ。

小泉 その他元町パルパローレをマサヤの近藤常吉が建てました。

来年春に、ローズガーデンパートIIもできるとか、楽しみです。

森本 ダイエー中内切のスポーツワールド33もあります。神戸のス

ポータティブライフを担うユニークな店です。

★奨励の意味で市野木江充子へ

小泉 いろいろ名前はあがっていましたが、ブルームール賞の対象となるのは、まず市野木江充子。泰万紀子、泰砂丘子の門下を経て二十年以上ニットの仕事をしているし、毎年意欲的にショーを開いています。

福富 前回のショーは、少し飛躍的すぎるように思いました。もう少し堅実さや実用性も持って欲しいと思いますね。

藤本 これからも彼女の個性を追求し続けていたらもっともつとよくなるでしょう。時々彼女の色調に、気になる部分があります。

福富 でも歴史の浅いニットの分野で頑張ってきたことは、評価したいですね。それによく勉強している。

小泉 稲垣足穂の文学的な世界にニットで挑戦したファイトと、作品がクールでありながらロマンを感じるイメーজの世界を表現している神戸らしいクリエイターとして貴重な存在だと思います。

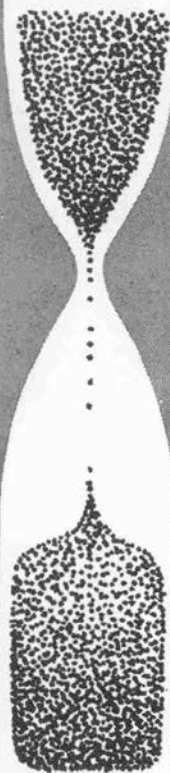
藤本 ともかく地味ですが熱心にコツコツ積み上げてゆく姿勢に対して、奨励の意味で今年は市野木江充子に決めてはどうでしょう。森本 結構だと思います。

△お可川にて▽

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



(25)

# 博覧会を成功に導く オール関西の視点

池田 茂樹

〈神戸ポートアイランド博覧会  
三井グループ出展者会事務局長〉

水上 章雄

△三菱神戸博覧会委員会事務局長▽

鈴木 守

△三金会事務局長代行▽

日比野 武

△芙蓉グループ神戸博覧会委員会事務局長▽

渡部 隆夫

△日本IBM㈱広報担当マネージャー▽

●楽しい中に何かを提案するパビリオンにしたい

今回は、ポートピアⅧへご出展される東京の五社の方々にお集まりいただきました。まず、各社のパビリオンの内容のご紹介をお願いいたします。

池田 私どものテーマは、「海の童話」ということですが、基本構想の線に沿って具体的に申しますと、全体のムードとしては楽しく、明るく、しかも清々しいということです。パビリオンの中に四つの箱—マジック・ボックスがあります。一の箱は「海の妖精」で、壁面に大きな絵本を四、五点展示して、観客が自分で頁をめくることができる。床にも一か所斜めの方向から眺められる絵本をつくる。穴あきの絵本や飛び出す絵本が音楽に合わせて仕掛けられる。二の箱は「波のおどり」で、迷宮とか錯覚をモチーフとして展開する。ここでは、模型を使って驚きを演出する。三の箱は「人魚の唄」で、映像のコ

マを動かす原理を再現して見せようと思い、中央にリング状に回転するスコープをつくって、リングの細かいスキ間が連続して回ると、内部に仕掛けられた像がユーモラスに動く。リングの下からはこの仕掛けが分かるようにもしたいと考えています。また、壁面には平面的に回転する絵で動く像を見せる仕掛けを設ける。四の箱は「子供の神様」で、これは、人形カラクリの動きをモチーフにして演出する。アチコチに仕掛けられた紐を引っ張ると人形が動いたり踊り出す。高度なメカニズムを単純な操作にどう置き換えて行くか、を検討中です。カラクリ人形はテーマに沿ったものを考えます。これらの箱は十畳四方の真四角で整然と並べる。館全体の外側は壁画のようなものを構想していますが、これはだまし絵を使いまして、ユーモアを加味した映像などで、外側から見ても楽しんでもらう。



渡部 隆夫さん



日比野 武さん



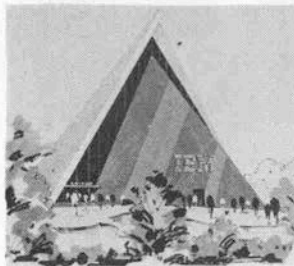
鈴木 守さん



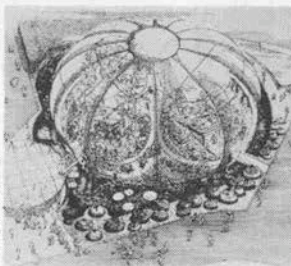
水上 章雄さん



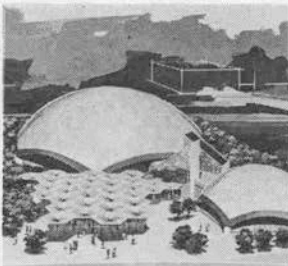
池田 茂樹さん



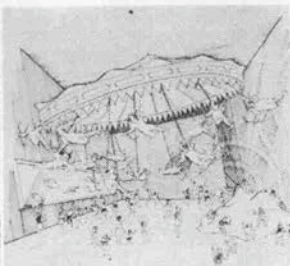
IBM館外観



芙蓉グループ館外観



三菱館外観



三井館より「子供の神様」

以上のように四つの箱という構想なんです。八〇年代を迎えてただ遊んでばかりいてはまずいので、新しい未来都市の創造ということを踏まえ、やはり、観客のみなさんに知的なイメージを感じていただくように展示の演出も絞っております。

水上 出展するに当たっては、大阪の万博、沖縄の海洋博の延長になるわけですが、万博のときには、「五十年後の日本、その空と海と陸」ということで夢を描いた。海洋博では「海と人間」ということで二十年、三十年先の理想を描いた。今度は「海と人間の明日」ということで、これは五年内に実現させるであろうということを描く。演出の方法ですが、三菱重工神戸製作所がつくっている回転レストランの方式ですね。直径三十メートル、幅二メートルのラウンドロード（回転回廊）を使って、大量の観客を円滑に誘導する。回廊の外、つまりドームの内壁、天井を三六〇度のスクリーンにして、造型、映像、照明、音響をコンピュータで操作して同時に演出をする。演出に当たりましては、過去二回と同様、田中友幸プロデューサーにお願いをしています。ラウンド・テーブルが一回回るのに約十分。エスカレータの半分ぐらいのスピードです。回っている間に、「気象海象予測」「地震予知」「資源の宝庫」の三つのストーリーを見てもらおう。前の二回の博覧会では、強制動線といいますが、物語りを持ち物でたどって行くわけですが、今度は最初から見られる方、途中から見られる方とありますので、十分間で三つのストーリーが分かれるという演出方法が難しく演出スタッフが苦心をしています。直径三十メートルのラウンド・テーブルで、音響だとか、映像だとか、全部を同時にやりますので、臨場感があるのじゃないかと期待をしています。そこで、三菱のいろんな技術をお見せしようと、海洋開発のためにどういう方法をやっているのか、省エネルギーだとか、いろんなことがあります。固い話をいかにやわらかく、分かりやすく物語りでご説明していくのが目的です。楽しく、ゆかいなバビリオンにしたい考

えです。

鈴木 先に三金会をご説明させていただきましたと、五十二年一月に、私も第一勸業銀行と比較的親しい企業四十四社のトップの方でつくられた親睦会で、三か月に一回、第三金曜日に会を開催するので三金会という名前がついています。現在考えておりますテーマは、「ふれあいの水」で、館の名称は「ハートピア水遊びのパビリオン館」。万博、海洋博を見ましても各パビリオンは映像や展示を主体としている。三金会のメンバーは業種が多岐にわたっているの、できるだけユニークなものをということで、八〇年代は物ではなくて心、人の温かいふれあいを育てるようなスペースを考えたい。未来の海上都市ということで水によるふれあいの場として考えています。博覧会はおまつりではあるけれど、何か訴えるものというか、提案が必要じゃないか、それから神戸という地方博ではあるが、コミュニティにおける人間の温かいふれあいを育てる、そのための提案を具体的に検討中です。これはこうだという考え方を提案するのじゃなく、さりげない広場とか遊具を通してやりたい。イメージとしては、未来の海上都市の広場の一つとして、水がつくり出す快適な環境と、そこに生まれる人と人とのふれあい、健康的で開放的なイメージを出したい。四十五社各社が最新の技術を盛り込んで、水に関する展示も考えています。具体的には、憩いの場所として開放的な空間を提供する。それから、水の楽しい演出、たとえば、滝とか噴水とか夜は音楽と光で演出をして楽しいものにした。三番目には、歩きながら、あるいは、参加しながら楽しむそういうルートというか動線を考える。単なる広場ではなくて、たとえば水のアスレティック、水の塔、池の中の島など遊びが育てる友情の場所、一緒に遊んで友だちになろう、ということを考えています。水を通して人と人とのつながりの輪を考えています。

日比野 芙蓉グループは、万博、沖縄博にも出展し、今度が三度目ですが、参加企業は三十六社、四十二社、五

十三社と回毎に参加企業の輪が広がっています。博覧会ですから、楽しく、誰にでも分りやすいということが基本ですが、それともう一つは、万博が人間の認知や技術の発展のきっかけになったという歴史がありますから、博覧会の場で、人間の未来に対して何か提言をしていくあるいは警鐘を打ち鳴らしていく、ということが必要じゃないか、単なるおまつり騒ぎには終わらせたくないと考えています。テーマを何にするかという議論の出発点で、神戸市がここ十年以上前から進めている新しい国土の創成は日本の都市の中でも珍しい、長期的構想で進めて来た壮大な事業だと思う。その一環として、ポートアイランドという人間の暮らしの機能をすべて備えた新しい文化都市は非常に意義が深い。すべての機能を備えた人工の都市ができたということは、あくまでも自然の本来の姿が残って、しかも、そこに人が住んでいるという自然と人間が調和できるような新しい国土が創設された、人間の知恵による新たな自然の創造というところをすべきじゃないか。それでは我々のパビリオンで、それを具現化する表現ができないかということで、自然の循環を尊重するというか、もう一度考え直すことが必要じゃないか。さらに、今、人類が直面している難問題、特に日本ではエネルギー問題、環境破壊問題などを解決していく一つの方向づけとして太陽を軸とした自然の力をもっと見直して活用していかないといけない。そういうことで「自然のめぐみ、ひとの知恵」ということをテーマにした展示はできないかということで話が進んできた。そこで、植物が今まで果たしてきた役割、植物と人間との過去の関わり合い、これから先の植物と人間との共存、こういったことを展示の中で具現化したい。建物は、過去二回と同様、空気膜構造の大家、村田豊さんに頼んでいます。空気膜構造は、素材が安く、空気を入れれば建物がふくらむというだけではなく、自然と調和させるという意味合いが非常に強い建物です。大きなドームの中に四つ小さなドームをつくり、そのうち一つを事



務室、三つを展示に使う。建物の中に植物を繁茂させ、植物の実物展示という事でやっていきたい。展示の概要は、入口の外に花の塔をつくる。一つ目の展示室は「あすの花園—みのりのくにへようこそ—」、水耕法、礫耕法で花と実をならせる。二番目は、植物エネルギーを未来の技術として使う実験の「植物のひみつ」、三つ目ではアニメーション映画をやります。有史以来の植物と動物、人類との関わりの説明です。

渡部 私どもとしては、楽しく、夢のあるもの、そして、それをご覧いただいたことによって、見てよかった、来てよかったという感想をもって帰って欲しいという気持ちが大変強い。博覧会のメインテーマが「新しい海の文化都市」の創造」ということですが、私どもは「文明への情熱・日本文化の交流と形成」ということをテーマにしています。これをテーマにしたのは、今からものを考えてみたい、何か勉強をしてみたいというときのきっかけにでもできたらということ、もう一つは、

大変な古代史ブームの一方、今、日本では国際的な交流の場としての大きな変化が生まれて来ている。それを過去にたどると、遣唐使、遣唐使の時代になる。そういうことで、遣唐使がもたらした日本文化へのインパクト、それによって今日にまでつながっている社会、芸術、風俗、習慣、法律、政治、あらゆるもののルーツになるものが多いわけです。ところが、遣唐使の乗った船はどんな船なのだろう、ということが、これまでの文献ではまったく不明なんです。乗った人数、航路というあたりまでしか分かっていない。どれだけの大きさで、どういう格好で、どういう構造で、どういう道具を使っていたかはまったくの謎です。それを学際的なアプローチによって何とかつくれるかということです。展示の中心は遣唐使船ですね。約二十層の長さで、幅は八層前後帆の高さは十六層前後で、歴史的考証に基づいて、可能な限り精密に当時の遣唐使船を実物大に復元する。展示会場は一番小さなものになるとありますが、真ん中に遣

唐使船を置き、その周りに海のシルクロードという位置づけで奈良・長安・ローマの大パノラマなどで遣唐使の意義、国際性、今日性を理解していただく。また、コンピュータの端末機によって、特に漢字を中心とした検索もやってみたいです。

●他都市との連携で博覧会をより有意義なものにしたい  
私どもも博覧会に大いに期待をかけているのです。が、ポートピアⅡに対するご意見をお願いします。

渡部 一番強く感じることは、地方の博覧会から脱して段々と規模が大きくなったんですが、まだまだ、関東や中部圏では話題の一つにものぼっていないことです。まだ一年あるわけですが、全国的な規模の博覧会に盛りあげていくにはどうしたらいいか、相当大きなテーマになると思う。在京五社の立場からいうと、これが特に大きな問題ですね。いかに盛り上げていくか、ですね。

日比野 一年前から切符を売っている話ですが、来年の世界の情勢や景気とかを考えると、そう樂觀できる状態でもないかも分からないですね。

鈴木 会場が神戸ですから、東京から一家三、四人で行くとすると、新幹線の往復の料金だけでも大変な金額になる。それだけかかって、行ってみようという気持ちを起こさせるピー・アールが欲しいですね。

水上 万博にしてもワットと盛りあがったのは三か月前からですが、八〇年代の幕開けの大きなイベントですからぜひ成功してもらいたいです。我々も何とか役に立ちたいと、そればかり考えてますが、ちょっと心配ですね。

池田 我々の社内でも殆んど知らないというのが事実ですね。まあ、我々としては全力を尽くさないといけないということをやっているわけですが、たとえば、会場への「足」の問題なんかネックになりそうですが、博覧会協会の対応の仕方には、我々から見ても今ひとつテンポが合わないな、と感じることがありますね。

渡部 東京から見て今度の博覧会は何が魅力でしょう。水上 昔は海を征服するとか、自然を征服するとか、い



っていたのが、最近では共存共栄、海を利用しようということになったが、その点ではポートアイランドはパイオニアですね。そういう点じゃないかな。

渡部 万博のときは、一度、新幹線に乗ってみよう、ということがあったけれど、何か、そういう「目玉」が一つできてくるといい。確かに人工島を見せるということもそうですが、アピールする何かが欲しい。

池田 そういう意味じゃ、仮りにこれが神戸でなくて、大阪や京都でやっても、アピールするものがない。関西復権が叫ばれながら、日本中を引きつける何かがない。

渡部 京都なり奈良なりとパッケージして、神戸と結びつけることが大切ですね。ポートビジュアルにだけ行つて帰って来るというのは、ちょっと、もったいないですね。

水上 それと今の状況では宿泊は神戸では限界があるので大部分は大阪だと思う。そうすると博覧会だけ見て大阪へ帰るということになる。それじゃ、もったいない。ルートづくりをされないと、バスでワッツと来られて、また、バスでワッツと帰られると、神戸全体としてはマイナスですね。元町を歩いてもらいたい、六甲山へも登ってもらいたいという感じがあると思うのですが。

渡部 宿泊施設が足りないのは基本的な問題ですね。国民宿舎というかテント村のようなものがあるといい。

池田 六甲山にある会社の寮をうまく利用させてもらうとか、考えられると思いますが。宿舎のことを本当に真剣に考えるなら、うちの池田会長がやっている見本市船を利用するとか、あれには宿泊施設がありますからね、そういうことが今ならできると思いますよ。協会から要望があれば、もちろん、ご協力はいたします。

日比野 万博のときは時勢が違っている。単なるおまつり騒ぎで人がワッツと集まるという時代ではないですね。それと、もう一つ、博覧会のあとはどうなるのだという問題がある。博覧会が終わったあとも大丈夫だという構想を示してあげないと、たとえば業者が入るにしても半年だけで元をとろうとするのは難しく、ピー・アー

ルのためにという協会の言い分だけではなかなか踏み切れない。地元で馴染んだお店が参画しないと、当然地元の関心も盛りあがらないことになると思いますね。

池田 関西は日本の文化のふる里ですね。そこに現代科学の粋をこらし、テクノロジを使って素晴らしい博覧会をやる。それがうまく調和して、みんなが、なるほど心のふる里、日本のふる里は関西だという感じがもてればいいのであって、関西ということで人を引きつけるような企画が、ある程度必要んじゃないでしょうか。

渡部 たとえば、奈良などと提携をして、東京から来られたらこういうプランがありますよ、ということを提供する。これは重要だと思いますよ。有馬温泉とか、城崎温泉とか、姫路城とかと結んだコースをつくる。

鈴木 ポートアイランドだけじゃなく、オール関西ということで、協会や神戸市が積極的に、こういうものもあります、主体は博覧会ですというもって行き方をしないとイケない。神戸の人なら日帰りで行けますが、東京から行くとなると、費用もかかるので、多面的に活用できるようなことをやっていただきたいですね。

池田 もっと大きな目で見てやっていただくと、最終的には神戸のプラスになると思う。視野が狭いとまずい。

渡部 それと、博覧会の期間、京阪神が別の催しをもつてもいい。美術展とか、コンサートとか、サブイベントとしてつくるべきだと思う。そっちへ観客が流れるだろうという小さな考えを起こさないことが大切ですね。丁度、期間中、高校野球があります、それとどう関連させるかを考えないといけない。出場や応援で全国から何千人も来るのだから、それを博覧会へ誘致する。どうシステマ化するか、です。こういう配慮を急ぐ必要がある。日比野 来年の修学旅行にどう働きかけるかということもありますね。

鈴木 主催は神戸市だが、オール関西の中の神戸だということをやっていたきたいですね。

---

### 田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市萫合区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

---

### オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

---

### カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三  
神戸市生田区三宮町1丁目17-4  
センタープラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

---

### 株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市生田区三宮町1丁目54  
TEL (078) 332-3155

---

### モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

---



H. ISHISAKA